

## 古墳壁画の保存活用に関する検討会（第13回）議事要旨

1. 日時 平成25年9月17日（木曜日）10:00～11:00
2. 場所 中央合同庁舎第7号館 共用第1特別会議室
3. 出席者 (委員)  
永井座長，有賀副座長，梶谷委員，北田委員，木下委員，佐藤委員，里中委員，佐野委員，高鳥委員，成瀬委員，銚井委員，三浦委員，森川委員，和田委員（協力委員）  
大石委員，小槻委員，西藤委員  
(事務局)  
文化庁：青柳文化庁長官，河村文化庁次長，石野文化財部長，大和文化財鑑査官，江崎古墳壁画室長，建石古墳壁画対策調査官，内田文化財調査官，林文化財調査官，宇田川文化財調査官，増記文化財調査官，横須賀文化財調査官 ほか  
独立行政法人国立文化財機構  
東京文化財研究所：佐野保存科学研究室長，早川分析化学研究室長，吉田主任研究員，犬塚主任研究員，早川主任研究員 ほか  
奈良文化財研究所：上田研究支援推進部次長，杉山企画調整部長，玉田都城発掘調査部副部長，田中研究支援推進部連携推進課長，平澤文化遺産部景観研究室長，高妻埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長，石橋飛鳥資料館学芸室長，降幡主任研究員 ほか

## 4. 概要

- (1) 開会
- (2) 委員及び出席者紹介
- (3) 議事

## ①高松塚古墳壁画修理後の保存方針の検討について

事務局から資料2に基づき説明があった後，次のとおり意見交換等が行われた。

成瀬委員：現在行われている壁画の修理は，壁画を寝かせておくことが前提の修理なのか，それとも立たせることを前提としての修理なのか。もし，立たせるとした場合，現在の修理の延長上で行うのか，また新たな薬剤を考える必要があるのか教えて欲しい。

建石調査官：現在進めている修理自体は，横に寝かせた形での処置をしている。もし，立たせる，あるいは天井は逆さまにするという話であれば，現在行っている処置を終えた後に，かなり大規模な別の方法をとる必要があると思われる。

## ②高松塚古墳石室石材の強度について

事務局から資料3に基づき説明があった後，次のとおり意見交換等が行われた。

和田委員：実感として，比較的安定した石材や壊れそうな石材の強度とはどの程度のものなのか。

高妻室長：数値で言うと，150kgf/cm<sup>2</sup>から200kgf/cm<sup>2</sup>が軟岩でも弱い部類の石で，コンクリートの構造物でも150kgf/cm<sup>2</sup>から200kgf/cm<sup>2</sup>の箇所は弱いと思われる。感覚的にはこの測定値であるものの表面をつめでひかくと，ポロポロと取れるところもある。

佐藤委員：高松塚古墳の石材は乾燥しても弱いという説明であるが，高松塚古墳以外の石室の石材について，比較研究したものはあるか。

高妻委員：キトラ古墳については，埋め戻しをするということもあって，現状を記録す

るために測定をしている。高松塚古墳よりもキトラ古墳の方が、若干強度は高いのではないかというイメージである。

和田委員：奈良盆地の後期古墳であれば、大きな石室が花崗岩など硬い石で作られている。一方、二上山の凝灰岩は石室に入れる石棺として使われていることが多い。高松塚古墳の場合は、石室自体が直接地面の中に作られており、花崗岩のような硬い石の覆いが全く無いと考えて良い。

③キトラ古墳壁画の材料調査（平成25年度計画の追加）について

事務局から資料4に基づき説明があった後、次のとおり意見交換等が行われた。

永井座長：調査の範囲が広がることは大変喜ばしいことではあるが、マクロ画像撮影について、十二支を追加した理由は何か。

建石調査官：作業が予定より早く進んでいることと、マクロ撮影は表面の細かな情報が得られることから、四神だけではなく、十二支の中で可能なものは行っておきたいと考えたためである。

④キトラ古墳整備に係る石室盗掘孔の閉鎖等について

事務局から資料5に基づき説明があった後、次のとおり意見交換等が行われた。

木下委員：墓道部の版築層について、石室の軸に沿った南北軸のはぎ取りが計画されているようだが、盛土とのかかわりで斜めになっている東西軸の版築層についてもはぎ取りを行うのか。

建石調査官：東西軸については、以前発掘した際にはぎ取りを終えており、現在奈良文化財研究所で保管している。

⑤国宝高松塚古墳壁画修理作業室の公開（第10回）及び特別史跡キトラ古墳石室の公開について（平成25年度）

事務局から資料6に基づき説明があった後、次のとおり意見交換等が行われた。

森川委員：今回の公開では、村立小学校の児童に見てもらうことができた。地元住民としてはこのようなものを見せてもらえることは本当にありがたいし、学びとして現物を見ることのすばらしさを体感させてもらえた。お礼を申し上げる。

⑥国宝高松塚古墳壁画修理作業室の公開（第11回）について

事務局から資料7に基づき説明があった後、次のとおり意見交換等が行われた。

永井座長：25年3月に行われた専門家公開の反応がどのようなものであったか、分かっているものがあれば教えて欲しい。

建石調査官：次回の検討会において、25年3月と12月の専門家公開の報告を併せて行いたい。

⑦キトラ古墳壁画の東京での特別公開について

事務局から資料8に基づき説明があった後、次のとおり意見交換等が行われた。

永井座長：話題を呼びそうなイベントとなりそうであるが、キトラ古墳壁画は修理中のものであり、輸送も含めて安全面に十分な対策をとってもらいたい。

森川委員：明日香村には、元々村外にすばらしい遺跡を持ち出すことに対する嫌悪感のようなものがあつた。ただ、明日香村では国土交通省と文化庁が一体となって、一体的に歴史的なものを展示し、体験、保管し、保全するという施設を作っている。そのような中で、明日香村としては、明日香法によって歴史的景観を守りながら、村民も我慢しつつ、国民あるいは国、県から支援をいただき様々なものを進めている立場として、東京で多くの方に見ていただく機会があるのは村にとっても良いことではないかと思っている。また、明日香村は日本の国の始まりの地としていろいろなものを持っている。そのようなものを国民の方に見ていただくということも一緒になって進めることで、地域振興策というよりも、飛鳥の歴史文化を一緒になって説明する機会にもなればと思っている。

(4) その他

永井座長から改めて高松塚古墳壁画の修理後の保存方針について委員に発言を求め、次のとおり発言があった。

西藤委員：石室石材の保存について、高妻室長からも石室の石材が弱いとの説明があり、総論としても戻すことは難しいとの話ではあるが、床の石は国宝に指定されていないため、強度としては弱くても、特別史跡のお墓としての<sup>あかし</sup>証として床石だけを戻すことはあるのではないか。そのことについても議論に加えてもらいたい。

そのほか、事務局から、第14回検討会を1月31日（金曜日）14時から、第15回検討会を3月27日（木曜日）14時から開催するとの報告があった。

(5) 閉会

以上